

# COMPANY PROFILE

## 会社概要

商号 日本ドライケミカル株式会社  
(Nippon Dry-Chemical CO., LTD.)  
代表者 代表取締役社長 遠山 榮一  
設立 1955年4月23日  
資本金 700百万円(2020年9月30日現在)  
従業員数 715名/グループ総数1,032名(2020年3月31日現在)

## 役員体制 (2020年9月30日現在)

役員	代表取締役社長	遠山 榮一
	取締役	浅田 裕冲
	取締役	佐藤 寛則
	取締役	亀井 正文
	取締役	松岡 猛
	取締役	樋田 浩二
	社外取締役	海老根 洋一
	常勤監査役	千葉 修
	社外監査役	渡慶次 憲彦
	社外監査役	紀陸 保史

※取締役 海老根洋一氏は会社法に定める社外取締役です。  
※監査役 渡慶次憲彦氏ならびに紀陸保史氏は会社法に定める社外監査役です。

## 株式の状況 (2020年9月30日現在)



株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
総合警備保障株式会社	1,100,000	15.71
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	397,600	5.67
日本ドライケミカル取引先持株会	363,400	5.19
株式会社初田製作所	200,000	2.85
新日本空調株式会社	192,000	2.74
沖電気工業株式会社	178,000	2.54
株式会社吉谷機械製作所	160,000	2.28
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	156,900	2.24
BNYM RE BNYMLB REGPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	147,800	2.11
日本ドライケミカル従業員持株会	140,200	2.00

※1 当社は自己株式180,624株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。  
※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会:毎年3月31日  
期末配当金:毎年3月31日  
中間配当金:毎年9月30日  
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

単元株式数 100株  
証券コード 1909  
公告の方法 電子公告の方法により、当社ホームページに掲載いたします。  
(<https://www.ndc-group.co.jp/>)  
ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告が行えない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
電話照会先 フリーダイヤル 0120-782-031  
(平日9:00~17:00/土日祝除く)



## NDC 日本ドライケミカル株式会社

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー  
<https://www.ndc-group.co.jp/>

第69期 第2四半期

# 株主通信

2020年4月1日~2020年9月30日



## NDC 日本ドライケミカル株式会社

証券コード 1909

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当社グループの属する防災業界におきましても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による業績への影響が懸念される状況にはありますが、防災・減災を目的とした公共事業や都市部の大規模再開発等による需要拡大への期待感は尚、継続しているように見受けられます。

このような経済状況のもと、当社グループは、引き続き自動火災報知設備から消火設備、消火器そして消防自動車までを広くカバーする総合防災企業としての立ち位置を更に強化しつつ、製品ラインナップの拡充を図り積極的な営業活動を推進してまいりました。また、各種防災設備の設計・施工、消火器及び消防自動車等の製造そしてそれらのメンテナンスを通じて、世の中に高度な安心・安全を提供し、より良質な社会インフラを構築するという社会的使命を果たすべく、グループ一丸となって注力しております。



スプリンクラーエース



可動式ブース「テレキューブ」

## 業界オンリーワンの総合防災企業として

当社は、1955年の創業以来、消火器から消火設備、消防自動車、そして自動火災報知設備の分野へと事業領域を拡大し続け、お客さまの防災にかかわるすべてのニーズにワンストップでお応えすることができる総合防災企業へと発展してまいりました。

さらに、競合他社との差別化を図るため、アライアンスの強化および研究開発体制の強化を推進し、当社オンリーの防災製品・防災システムの開発を積極的に進めてまいりました。

2021年3月期の上期においては、従来の消防機器とは全く異なる発想の、想定外の作為的な火災およびガソリン等の漏洩による火災を抑制するための火災抑制剤放射器「クイックスプラッシャー」を上市いたしました。

働き方改革を発端に普及している可動式ブースの消火装置として、業界に先がけ、小規模な防火対象物の天井に設置する自動消火装置「スプリンクラーエース」が採用され、駅構内の個室型ワーキングブースや企業内の打ち合わせブースに納入実績をあげております。

また、地球環境への負担を軽減する取り組みとして、化学物質の世界的な規制強化を先取りした各種消火薬剤の開発、そしてそれらを用いた防災製品・防災システムの開発を進めております。

当社は引き続き、火災報知から消火までをカバーする最強の防災プロフェッショナルとして、当社オンリーの防災製品・防災システムの創造を進め、お客さま視点に立った業界ナンバーワンの総合防災メーカー、エンジニアリングカンパニーへと飛躍してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 遠山 榮一

# NEWS & TOPICS

## ニュース&トピックス

### 新型コロナウイルス対応について

当社は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、お客様、従業員、関係先等の皆様の安心・安全を第一に考え、次の対応を実施しております。緊急事態宣言解除後も、一部の従業員の在宅勤務を継続しております。また、時差出勤の推奨、社内会議・外部会議・集会・セミナー参加における3密対策の徹底、在宅勤務におけるグループウェア活用の推進を行っております。

### 東京都北区に本社を移転しました

当社は、2020年2月25日、東京都港区台場から北区田端に本社を移転しました。この移転は、グループ内の業務効率化を図り、BCP(事業継続計画)を推進する目的によるものです。



本社のある田端ASUKAタワー



# FEATURE

## 日本初「火災抑制剤放射器」 クイックスプラッシャー

クイックスプラッシャーとは？

ガソリン等を用いた放火による痛ましい事件を二度と発生させない、という思いから誕生したクイックスプラッシャー。不慮、不測の油流出に対して火災抑制機能を発揮します。

# “ 着火を未然に防ぐ 新発想の火災抑制剤放射器 ”

### ▼ どのように防ぐ？

可燃性の高いガソリン等が流出してしまった場合、着火する前に、瞬時に火災抑制剤を広範囲に放射することにより、ガソリン等の蒸発を抑えることができます。

### 着火防止

クイックスプラッシャーを  
放射



火を近づけても着火せず  
燃焼を抑制



### ▼ 万一の「油漏れ対策」に効果的

交通事故現場やガソリンスタンドなどでガソリンが漏洩した際、火災抑制剤を放射することで、着火を未然に防ぐことができます。放射後は、油ゲル化剤などで安全に油を回収することができます。

### 交通事故現場



### ガソリンスタンド



仕様	
薬剤質量	2.5L
総質量	約5kg
高さ	約518mm
容器径	φ123mm
放射範囲	10㎡
放射時間	約1.8秒
使用温度範囲	0～+40℃

特許出願中

### ▼ 製品特長

- 2.5Lの火災抑制剤を約1.8秒で瞬時に放射します。
- 1本で10㎡(6畳分)の広さをカバー。ガソリン等の蒸発を防ぎます。
- 安全栓を外して、レバーを握るだけの簡単操作です。
- 着火してしまっても瞬時に火勢を抑え込み、避難を容易にします。
- 消火器とほぼ同じ重さ(約5kg)で持ち運びが簡単です。

## COLUMN

- 社員が語るNDC -



営業本部 消装東京支店  
第1営業部 副主任  
**宮前 隼人**  
2016年入社

私が所属する消装東京支店営業部では、オフィスビルや商業施設など消火設備を必要とする建物を対象とした、設備工事の営業を行っています。大規模な新築工事の受注がある一方で、既存の消火設備の改修工事も請け負っています。

担当案件の半数を占める改修工事では、機器の交換・更新のための書類作成に多くの時間をかけます。お客様に納得していただける資料を作成するためには、様々な視点や情報が必要なので苦労しますが、その半面、よい結果につながったときの達成感はひとしおです。

お客様と日々コミュニケーションを取り、工事を確実に納めることができたとき、また、「次も御社と仕事をしたい!」と言っていただけるたびに、やりがいを感じています。最終的な目標は大型物件や地域のシンボルになるような建物の受注ですが、どのような工事でもより良い条件で受注することも目標に営業活動を行っていきます。

保有する資格は、消防設備士甲種1類、乙種6類を取得。現在は甲種3類の勉強中です。お客様からの信頼を得るために、資料の内容やお客様への説明方法など、営業技術を磨き続けていきたいです。



## ABOUT PERFORMANCE

### 第2四半期累計期間 連結決算概要

#### 連結貸借対照表

(単位:千円)

	前期末 2020年3月31日現在	当第2四半期末 2020年9月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	26,763,913	21,074,490
固定資産	15,131,275	14,614,458
有形固定資産	8,844,315	8,552,179
無形固定資産	1,456,470	1,342,477
投資その他の資産	4,830,489	4,719,801
<b>資産合計</b>	<b>41,895,188</b>	<b>35,688,948</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	19,698,412	13,424,255
固定負債	6,199,473	5,997,684
<b>負債合計</b>	<b>25,897,886</b>	<b>19,421,939</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	13,413,812	13,768,996
資本金	700,549	700,549
資本剰余金	3,620,607	3,620,607
利益剰余金	9,349,514	9,704,698
自己株式	△ 256,859	△ 256,859
その他の包括利益累計額	442,441	440,973
<b>純資産合計</b>	<b>15,997,301</b>	<b>16,267,009</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>41,895,188</b>	<b>35,688,948</b>

#### 自己資本比率(連結)

	前期末	当第2四半期末
	33.1%	39.8%

### POINT

当第2四半期連結会計期間末の財政状態は、売上債権および仕入債務の減少、短期借入金の返済等により総資産が前期末比6,206百万円減少し、資産合計は35,688百万円となりました。また、利益剰余金の増加等により純資産合計が同269百万円増加し、これらの結果、自己資本比率は39.8%となりました。

#### 連結損益計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自2019年4月1日 至2019年9月30日	当期(累計) 自2020年4月1日 至2020年9月30日
<b>売上高</b>	<b>17,832,700</b>	<b>19,009,354</b>
売上原価	13,849,688	14,768,603
<b>売上総利益</b>	<b>3,983,012</b>	<b>4,240,750</b>
販売費及び一般管理費	3,155,944	3,359,766
<b>営業利益</b>	<b>827,067</b>	<b>880,984</b>
営業外収益	43,547	143,030
営業外費用	27,774	176,362
<b>経常利益</b>	<b>842,840</b>	<b>847,652</b>
特別利益	356	123
特別損失	16,491	3,617
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>826,705</b>	<b>844,158</b>
法人税等合計	304,942	327,941
<b>四半期純利益</b>	<b>521,762</b>	<b>516,216</b>
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	38,511
<b>親会社株主に帰属する四半期純利益</b>	<b>521,762</b>	<b>477,704</b>

#### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前期(累計) 自2019年4月1日 至2019年9月30日	当期(累計) 自2020年4月1日 至2020年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 513,113	3,847,293
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,160,871	△ 142,986
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 378,084	△ 4,068,329
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7,445	△ 16,687
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,059,515	△ 380,709
現金及び現金同等物の期首残高	3,669,631	3,650,528
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,610,116	3,269,818

### POINT

当第2四半期連結累計期間の連結損益は、防災設備事業において採算性の良い案件受注に努めてきた結果に加え、プラント施設の工案件増加及び消火設備用機器・製品の販売が増加したこと等により、売上高は前年同期比1,176百万円の増収、営業利益は同53百万円の増益となりました。